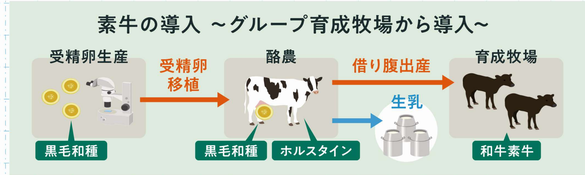
ノベルズグループ

「持続可能な農業」十勝の生産者へ輪を広げる

十勝を拠点に、グループで12牧場を経営するノベルズ（本社上士幌町）。黒毛和牛とホルスタインから生まれるブランドの「十勝ハーブ牛」、黒毛和牛、ホルスタインそれぞれを含め、総飼養頭数3万4000頭の国内最大規模のギガファームだ。グループとして蓄積したノウハウを生かし、バイオガスプラント建設や受精卵の販売・移植にも取り組み、持続可能な畜産業のあり方を提案している。

和牛受精卵、酪農家の新たな収益に

株式会社 ノベルズブリーディングサービス



輸出拡大が見込まれ、需要が大きい和牛生産

受精卵を活用して生まれる和牛子牛

今後の受精卵活用の普及に意欲を見せる外谷社長

国内最大の素牛出荷

ノベルズブリーディングサービス（帯広市）は、ノベルズで生産した和牛受精卵の販売・移植を行っている。主にホルスタインに和牛受精卵を移植。和牛子牛は需要が大きいほか、酪農家にとって生乳生産以外の収入の柱になるメリットもある。

都府県では酪農家の離農が進み生乳生産量が減少。生乳の安定供給が求められる中で、猛暑で乳量が減るなど酪農家を取り巻く環境は厳しい。収入を増やすために頭数を増やすことが考えられるが、土地やふん尿処理の問題もついて回る。

ノベルズは交雑種の雌牛に和牛受精卵を移植して和牛子牛を産ませ、1産した交雑種を肥育する「交雑種1産取り肥育」を事業化したノウハウを持つ。現在はホルスタインの「借り腹」で出産した牛も含め、和牛の素牛（＝もとし、子牛）出荷頭数は月700頭と国内最大規模。出荷した素牛の質は評価も高く、外部への和牛受精卵販売・移植を担うノベルズブリーディングサービスが3月に設立された。

受精卵の卵子を提供するドナー牛はゲノミック評価を受け、肉質が良く、市場価値の高い牛の生産が期待できるものを使用。生産コストを下げ、求めやすい価格で受精卵を提供している。

和牛生産「倍増」へ

酪農家は通常の飼料生産や搾乳で忙しく、また和牛子牛は寒さに弱いなど手がかかる面もあるため、ホルスタインに受精卵移植で和牛を産ませる手法は道内ではまだ一般的ではない。ただ政府は海外でも人気が高い和牛の輸出拡大を図るとみ、和牛生産量を2035年度までに現在の倍に当たる30万㌧に増やす目標を掲げるなど、和牛需要は増している。和牛繁殖農家が減る中、受精卵移植は和牛子牛の供給のほか、酪農家の新たな収入源になり、「持続可能な酪農」の助けにもなる。

外谷賢吾社長は「移植をした後のきめ細かいフォローも行っていく。受精卵活用が、酪農家にとって生乳以外の収益の柱になってほしいと期待する。

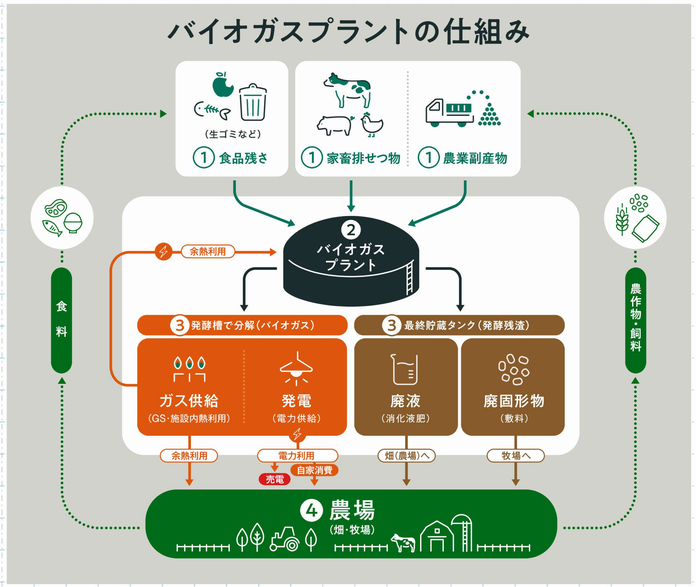
-主な取り組み-

9 産業と技術革新の基盤をつくろう　12 つくる責任 つかう責任

株式会社 ノベルズブリーディングサービス
代表取締役社長・受精卵移植師　外谷 賢吾

バイオガスプラント計画から運用まで

株式会社 嘉藤農機



ノベルズグループは山形県でも牧場を運営予定で、十勝での耕畜連携のノウハウを生かしている（写真は同県の牧場概要を説明した2019年の記者会見。左から4人目がノベルズ延與雄一郎社長）

-主な取り組み-

9 産業と技術革新の基盤をつくろう　11 住み続けられるまちづくりを　12 つくる責任 つかう責任

株式会社 嘉藤農機
代表取締役　嘉藤 淳介

海外大手メーカーと提携

「ふん尿処理は畜産にとって重要な問題。ここを解決しなくては、持続的な規模拡大ができない」。嘉藤農機（帯広市）の嘉藤淳介社長はこう話す。嘉藤農機は昨年12月に設立、バイオガスプラント建設・運用・手続きなどを手がけている。畜産にとって家畜ふん尿の処理は切り離せない問題で、その解決策の1つがバイオガスプラントの建設。ただ大きな設備投資費用がかかり運用ノウハウも必要なことから、導入ハードルも高い。

同社は今年、世界中でプラント建設を手がける業界大手ウェルテックバイオパワー社（ドイツ）とパートナーシップを締結、世界各地に設置を進める同社のプラントは導入コストも国内の他プラントと比較しても安く、設置にかかる期間も短い。嘉藤農機が手がけるグループの浦幌デーリイファームのプラント（10月稼働予定）も、ウェルテック社製。計画から建設、運営管理までの総合的なサポートができるのも嘉藤農機の強み。オペレートレーニングも含め、運用フローまでもサポートする。嘉藤社長は「ノベルスグループとしてプラントを運用してきたノウハウがあり、その部分をお客様に提案したい」とする。

バイオガスプラントの内部

消化液 畑作農家に還元

バイオガスプラントでふん尿や残さなどバイオマスを分解、発酵。その過程で電力とともに生み出されるのが有機肥料の「消化液」だ。

土壌の団粒構造を作り、水はけを良くする消化液は、処理過程で雑草の種子が死滅しているため通常の堆肥と比べ雑草が広がる心配がない。また臭気も少ないため扱いやすい。同社ではこの消化液を「地域農家」に還元。散布機械のレンタルを検討しているほか、グループの十勝耕畜クラスター（帯広市）とも連携して販売網構築にも乗り出す考えだ。

10月中にも稼働する浦幌町のバイオガスプラント

浦幌デーリイファームで稼働するプラントは嘉藤農機として手がける1基目で、ふん尿処理量は1日80㌧（1000頭分）で、発電量は1時間あたり250㌔㍗で、電力は自家消費する。またノベルスグループの山形の牧場でもプラントを建設中。今後は自社グループ以外の建設も担っていく。搾乳施設から出る排水処理など、畜産・酪農に関する各種相談にも応じたい考えだ。

士幌町出身の嘉藤社長自身、高校卒業後に約10年酪農を営んでいた。「自分は農業が好き。『農業よ永遠たれ』の思いで、持続可能な農業を次世代につなげたい。

昨年12月に設立。今後は自社グループ以外の事業も手がけていく

持続できる農業を永遠に

持続可能な農業の実現へ、新たな仲間と描く未来ストーリー

ノベルズグループ採用サイトでは、仕事内容や働く環境、先輩社員の生の声を余すことなくお伝えしていきます。
あなたの農業に対するイメージを変える先進企業であることをぜひ実感してください。

ノベルズ 採用　検索

株式会社ノベルズ　上士幌町上士幌東3線259番地　TEL：0155-67-7501（採用）　https://nobels.co.jp/